国際社会学部

記憶／歴史認識論

memory studies

どのような学問か

記憶に関する研究は、古くから心理学や社会学などの分野で進められてきましたが、現在の記憶論は、フランスの社会学者でありデュルケームの弟子だったモーリス・アルヴァックスが社会的に構築される記憶を理論化してから始まりました。以降、集団によって形成、共有される記憶がどのように社会的なアイデンティティの形成や人々の行動に影響を与えるのか、政治的にはどのように利用され、集団関係にはどのような影響を及ぼすのか、といったことが研究されてきました。特に1990年代から2000年代にかけて急速に関連する研究が増え、この時期は「記憶ブーム」という言葉で表されます。記憶論の研究は、紛争解決や和解の達成、外交課題の解決、歴史教育のあり方など、様々な分野に応用されています。その意味で、記憶論は非常にプラクティカルで応用範囲の広い学問だと言えるでしょう。

外大の記憶や歴史認識に関する研究

記憶論はとても学際的な学問領域です。記憶に関する研究は、心理学や社会学のほかにも、政治学や歴史学、国際関係論、文学、博物館学など幅広いディスプリンで扱われています。そのため、カルチュラル・スタディーズ、ナショナリズム研究、アイデンティティや民族意識に関する研究、文学研究、紛争解決や移行期正義、歴史教育など、東京外国語大学で学ぶことができる多くの授業とも高い関連性をもっています。

関連する授業一覧 （2023年度）

- **「公共圏における歴史」（篠原琢）**
- **「中央ヨーロッパのナショナリズム研究」（篠原琢）**
- **「歴史から教訓は学べるか？」（小野寺拓也）**
- **「感情史とは何か」（小野寺拓也）**
- **「歴史認識論」（片岡真輝）**
- **「紛争後社会と和解」（片岡真輝）**

ゼミ

- **篠原琢**
- **小野寺拓也**
- **片岡真輝**

関連する学問分野

- 社会学
- 政治学
- 心理学
- 歴史学
- 文学
- 教育学
- 国際関係論

おススメの本

- モーリス・アルヴァックス（鈴木智之・訳）『記憶の社会的枠組み』
- ピエール・ノラ（谷川稔・訳）『記憶の場』（全3巻）
- アライダ・アスマン（安川晴基・訳）『想起の文化：忘却から対話へ』
- キャロル・グラッグ『戦争の記憶　コロンビア大学特別講義－学生との対話－』